

総合的な学習の時間指導案

福山市立新市小学校

教諭 青木 千恵（１組）

能島 美希（２組）

- 1 学 年 第5学年 43人
- 2 場 所 5年1組教室 5年2組教室
- 3 単元名 受け継ごう！広めよう！日本の食
～米づくりを通して～

4 単元について

<児童観>

本学年の児童は、昨年大豆の植え付けから収穫までを体験している。そして、大豆の栄養や魅力など、大豆について探究したことを事典にまとめ、地域の方に発信した。こうした活動を通して、児童は自分の周りの「ひと」「もの」「こと」との関わりやつながりをみつめ、農作物を育てる苦労や喜びを感じるとともに、食の大切さにも気付くことができた。そのため、給食の残菜はほとんどない。しかし、日頃の生活を振り返ると、全般的に食に関する意識が低いのが現状である。

4月から地域の方々の協力の基、田んぼやバケツで稲を育てる活動を行ってきた。初めて稲に触れる者も多く、成長記録や水管理などに意欲的に取り組んでいる。また、“日本の「食」プロジェクト”では、米作りを通して、「食」についての関心を広げ、課題意識をもって様々な活動に取り組んでいる。その中で学んだことを、進んで他学年に伝えに行く姿も見られ、日本の「食」のよさについてたくさんの人に広めていきたいという思いをもつことができています。

アンケート項目	とても 思う	まあまあ 思う	あまり 思わない	思わない
総合的な学習の時間は楽しい。	86%	12%	2%	0%
課題について調べていく中で、自分の考えを持つことができる。	41%	51%	8%	0%
集めた情報を分類したり整理したりできる。	39%	52%	9%	0%
考えたことを工夫して伝えることができる。	34%	42%	24%	0%
友達と意見交換しながら協力して取り組むことができる。	28%	48%	24%	0%
地域の人と触れ合うことができる。	43%	41%	16%	0%
自分にはよいところがある。	29%	42%	24%	4%
朝食をバランスよく食べている。	61%		39%	

5月に行った『総合的な学習の時間に関して』『食に関して』のアンケート結果は、上記の通りであった。「総合的な学習の時間は楽しい。」の肯定的評価は、98%であり、楽しく意欲的に取り組んでいることが分かる。また、「課題について調べていく中で、自分の考えを持つことができる。」の肯定的評価は、92%であり、これまでの学習を通して力が付いてきている。

しかし、「考えたことを工夫して伝えることができる。」の肯定的評価は76%で、まとめたり発表したりする技能や考え方の広がりには個人差が大きく、個別に支援を必要とする児童も見られる。特に言葉や文章で自分の考えを分かりやすく伝えることを苦手としている児童が多く、表現力を伸ばしていく必要がある。「友達と意見交換しながら協力して取り組むことができる。」の肯定的評価も76%で、伝え合う力に課題があり、指導上の工夫や改善が必要である。「自分にはよいところがある。」と肯定的に答える児童は71%であり、自己肯定感が低い。また、「朝食をバランスよく食べている」と肯定的に答える児童は61%で食生活に課題がみられる。

<単元観>

本単元は、米づくりを通して、「食」に対する関心を深め、「食」をとりまく問題を追究していく中で、「健康や生命」「昔からの知恵や工夫」「人々の思い」「自分の生き方」を見つめていくことができる単元である。

お米は、日本人の主食であり、わが国では2千年以上前から、米を中心とする食文化を育ててきた。しかし、食生活は大きく変化し、食の外部化等が進展する中で、栄養バランスに優れた「日本型食生活」や地域において継承されてきた特色ある食文化や豊かな味覚が失われつつある。そこで、『受け継ごう！広めよう！日本の食』をテーマに設定した。日本の「米」・「食」を探究する活動を通して、日本独自の食文化に触れ、それらのもつよさや今日まで受け継がれてきた意味を知ることにより、日本人が大切にしてきた「米」・「日本食」に寄せる思いを感じることができる。また、米作りの体験から、一つ一つの食物に込められた苦労や願いを感じることができる。さらに、家庭科の学習と関連させ、“地域の食材や旬の食材を取り入れた調理法を知り、好き嫌いなく様々なものを食べる。”“マナーに気を付ける。”など、身近なことから取り組むことにより、「食」を改めて見直す態度を育てたり、「食」に対する見方や考え方を自分の生き方として身に付けたりすることもできる。

探究活動では、栄養士、農林水産省、JA、地域の農家・料理家、家族へインタビューや聞き取りをするなど、自分たちの「食」を支えてくださる方々と直接ふれ合って、日本の食文化のよさ、食生活の配慮、米に対する思いや願いなどを学ぶことにより、人との関わりを広げたり、自分の考えを深めたり伝えたりする力を培える。

さらに、「受け継ごう！広めよう！日本の食」のテーマの基、たくさんのつながりの中で、体験的な学習や表現活動をし、学びを発信することを通して、「効果的に表現する力」、「自分の食生活や考え方を見つめ直し、よりよい生活を想像する力」が身に付くと考えられる。

<指導観>

指導にあたっては、「日本の食文化」のよさについて、体験したり学んだりしたことを、対象を決めて発信していくという「日本の『食』プロジェクト」の一連の活動のつながりを意識させることで、主体的・協同的に学習に取り組ませ、探究的な学習を深めさせていきたい。

第一次「『食』の中心、米作り体験をしよう」では、まず、昨年度の先輩たちの活動記録や成果物を見て、活動の見通しをもたせる。そして、“うるち米”“もち米”の苗作り、田植えなどの体験活動を通して、米を中心にした「食」への興味や関心をもたせたり、作る楽しみや苦労に気づかせたりしていく。地域のゲストティーチャーと関わる時間を確保し、米づくりの体験をしながら、一緒に活動したり話をしたりする機会を作っていきたい。また、多様な方法で米や食について情報収集し、知識を広げ整理・分析・キーワードづくりをする中で、「米」・「食」への様々な見方や問題に気づかせて、これからの探究活動への意欲をもたせたい。

第二次「日本の『食』プロジェクトⅠ」では、第一次にまとめたキーワードを基に、社会科の学習との関連を意識しながら、資料を活用し、いろいろな方向から「米」や「食」についての問題を捉えられるようにしていく。まず、身近な生活の中での「食」の問題点を実態調査し、給食や食の改善ポイントを共通課題として取り組んでいく。そして、チームごとに課題を解決するための調べ活動や他学年に向けての啓発活動を進める。また、農林水産省“日本食文化の世界遺産化プロジェクト”に賛同登録し、農林水産省の職員による出前授業を通して、日本の食文化の特徴を学ぶとともに、日本食文化を守るために自分たちに出来ることを考えさせ、新たな課題意識をもたせる。そして、「日本食文化を受け継ぎ、多くの人に広めていく」という目的を設定させ、どんな活動ができるか、誰に発信していくかなど活動計画を立てさせる。課題解決の手だてとしては、図書やインターネットの資料にあたるだけでなく、自分たちの「食」を支えてくださる様々な方々との連携を図り、児童の活動が活発になり考えが深まるように支援していく。そして、共通課題チームごとに伝えたいことを明確にして発表し、アドバイスをし合う場である中間発表会を設ける。そこで児童の既存の経験や知識と、学習内容により整理・分析された情報とがつながり、個々の考えが明らかになったり、課題がより鮮明になったり、新たな課題が生まれたりしてくる。こうして追究してき

た課題を自分の「食生活」の在り方と結び付け、再度見つめ直し、夏休みの「日本の『食』プロジェクトⅡ」につなげていく。

第三次「日本の『食』プロジェクトⅡ」ではこれまでの学びを生かし、各自テーマを決め、“日本の食文化を受け継ぎ、広めていくために”できることに取り組む。夏休み中に実践できるように、家庭科の学習との関連を意識しながら、地域の料理の先生と連携をとり、「おばあちゃん先生の料理の基礎講座」や「親子料理教室（一汁三菜の献立）」を開き、保護者の協力も得ながら、日本食のよさを生かした食事作りが実践できるように支援していく。福山市主催の「ヘルシーメニューコンテスト」にも参加させたい。このようにして取り組んだことや考えたこと、伝えたいことを、第二次の活動や国語科の学習と関連させながらまとめさせる。そして発信する対象を1学期に決めていた外国の人とする。事前にとったアンケートを基に、“外国の人（A L T）にも日本食文化のよさを伝え、日本食を好きになってほしい”という目的意識をもち、チームで工夫して発信させたい。

第四次「収穫祭へようこそ！」では、大切に育てた米の収穫を祝うと同時に、収穫した米と4年生の時に育てた黒大豆で作った味噌を中心に考えた料理で“和のおもてなし”をし、地域の方に感謝の気持ちを伝えたい。また“日本食文化の世界遺産化プロジェクト”へ向けて“日本の「食」プロジェクト”の学びを発表し、アドバイスをいただく場とする。各教科で獲得した表現方法を積極的に活用し、探究活動により分かったことや考えたことを様々な方法で分かりやすく伝える。これまで調べてきた日本食の知識を生かしてパンフレットを作成したり、これまでの活動で学んだことや感じたこと、感謝の気持ちなどを込めた歌詞を作り、自分たちで作った曲と合わせて歌にして発表したりする活動を通して、表現力を育てたい。友達と力を合わせたり意見交流したりして発表に向けて活動することで、仲間がいることで成し遂げられることを実感させたい。また、事前にこれまで関わっていただいたゲストティーチャーにもアドバイスをいただく機会を設け、よりよいものを目指していかせたい。収穫祭では地域の方に教わりながらしめ縄づくりをし、稲の伝統文化に親しませる。活動を通して力を合わせて取り組むことの大切さや地域社会にかかわる喜びなどを実感していく。地域の方と積極的にコミュニケーションをとり、感謝の気持ちやつながりを感じ取らせたい。また、発表の感想やアドバイス、これからの地域や子どもたちに対する思いや願いを語っていただくことを通して、自分たちの発表を振り返りよりよいものにするとともに、自分の生き方について学ばせていきたい。

第五次「日本の『食』プロジェクトⅢ」では、発信する対象を他学年や家族に広げ、これまでの取組を通して身に付けてきた、“食に対する見方や考え方”“日本食文化のよさ”そしてこれからの生き方について語らせたい。相手を意識して、伝えたいことを論理的に表現することで、自分の考えを一層確かなものにしていく。そして、“2013 年秋登録決定！”をめざし、“日本食文化の世界遺産化プロジェクト” へ向けて発信していく。

第六次では、ポートフォリオなどでこれまでの活動を振り返り、その価値を確認し自分の成長を確かめさせたり、個人の進歩の状況を積極的に評価したりすることで自己肯定感を高めさせたい。そして、最高学年に向けての自分のめあてや意欲をもたせ、「〇〇（もち米を使った料理）で祝卒業！バトンタッチの会」で表明させたい。

単元の全体を通して、目的やつきたい力を明確にし、見通しをもたせて、探究活動を繰り返させていく。国語科等と意図的に関連させ、新聞づくりなどで、体験を言語化する活動を積み重ねることで、学習成果を分かりやすく発信する力、自分を振り返る力を育てたい。また、協同的な学習を有効に機能させ、一人一人の学びや考えをグループ内外で交流し深める場面を多く取り入れ、表現力や伝え合う力を育んでいきたい。

5 単元の目標

- ・ 学習内容に関心をもち、意欲的に調べ、進んで学習に取り組もうとする。（学習への意欲）
- ・ 稲を育てたり、米や日本食文化のよさを多くの人に発信したりすることについて、自分なりの課題をもつことができる。（課題発見力）
- ・ 課題追究の計画を立て、自分なりの手段を選び、最後までやり切ることができる。（課題追究力）

- ・ 課題を解決するために必要な情報を選択・活用し、相手の考えを認めたり、自分の考えに取り入れたりすることができる。(課題追究力)
- ・ 課題について調べたことを基にして、いろいろな方法で自分の考えを分かりやすく表現する。(表現力)
- ・ 活動を通して、自分の成長や友達のよさに気付く。(評価力)
- ・ 自分と「食」のつながりや日本食文化について考えたことを、これからの自分のくらしに生かすことができる。(生活活用力)

6 つけたい力と単元の評価規準

つけたい力		評価規準
学習への意欲 (ア)		①学習内容に関心をもっている。
学ぶ力	課題発見力 (イ)	①学習内容に対する自分の課題を見付けている。
	課題追究力 (ウ)	①問題解決に向けた自分なりの調査方法を見付けている。 ②多様な情報を収集し、整理・分析している。
	表現力 (エ)	①伝えたいことを相手に分かりやすく表現している。 ②目的や相手に応じて、いろいろな方法で表現している。
	評価力 (オ)	①自分の成長や友だちのよさに気付き、自分を高めようとしている。
生き方の探究	生活活用力 (カ)	①学習したことを生かし、自分ができることに取り組んでいる。

7 指導と評価の計画 (全70時間)

次 時 間	主な学習活動 (○) 児童への手立て (☆)	評価規準 (評価方法)	教科等との関連
第 一 次 (10)	「『食』の中心、米作り体験をしよう」 オリエンテーションをし、活動を見通そう。 ○ 米づくりを通して学習したいことを考える。①② ☆ 昨年度の先輩の活動や成果物を見て、見通しをもたせる。 ☆ ウェビングを用いて、これからの活動について多様に考えを広げさせる。 ○ 米についての知識を広げる③④⑤ ☆ 調べたことを個々の掲示コーナーに掲示していくことでクラスとしての共通理解がはかれるように教室環境を工夫させる。 ☆ 集めたカードを整理・分類し、それぞれのキーワードを挙げてまとめ、次時の課題設定につなげる。 <u>米作りの実際を学ぼう</u> ○ 米作りの実際を学ぶ。⑥⑦⑧⑨⑩ [田んぼでうるち米・バケツでもち米を作ろう。] ☆ 芽出し・種まき・育苗・代かき・田植え・水の管理・成長観察・草取りに責任をもって取り組ませる。	・ 「米」・「食」について関心をもっている。 (ア) ① (行動観察・ノート) ・ 学習内容に対する自分の課題を見付けている。 (イ) ① (行動観察・ワークシート) ・ 問題解決に向けた自分なりの調査方法を見付けている。 (ウ) ① (行動観察・カード) ・ 多様な情報を収集し、整理・分析している。 (ウ) ② (行動観察・ノート) ・ 学習内容に関心をもっている。 (ア) ① (行動観察・ノート) ・ 学習内容に対する自分の課題を見付けている。	国語 文語調の文章について知り、昔の人のものの見方や感じ方を知る。 国語 見出しやリード文から要旨をとらえ、複数の新聞記事を読み比べることの意味や効果を知る。 理科 植物を育て、植物の発芽、成長及び結実とその条件についての考えをもつ。 道徳 自らの健康を見直し、節度を守って元気に生活しようとする態度を養う。 家庭科 日常の食事への関心を高め、食事の役割を知り、大切さに気付くとともに、楽しく食事をするための工夫を考え、実践できるようにする。

	☆ 米の育て方などを学ぶために、地域のゲストティーチャーと連携を取り、一緒に活動する。	(イ) ① (行動観察・ノート) ・ 問題解決に向けた自分なりの調査方法を見付けている。 (ウ) ① (行動観察・カード) ・ 多様な情報を収集し、整理・分析している。 (ウ) ② (行動観察・ノート)	学級活動 給食の様子を振り返り、食生活を考えさせる。 道徳 家族の幸せを考えて、進んで役立とうとする心情を育てる。
第二次 (10)	<u>日本の「食」プロジェクトⅠ</u> ～日本の「食」を探究しよう～ 「日本食文化の世界無形文化遺産化へ」 ○ 給食・食アンケート，実態調査① ☆ アンケート結果から，実態を把握させ，活動の目的を設定させる。 ○ 課題設定・活動計画②③ ☆ 一次でキーワード化したものを基に課題を取り出し，調べたいこと・活動していくことを決め，活動計画を立てさせる。 ☆ 社会科で学習することをベースにしながら，「日本の食」について多面的な課題をもたせるようにする。 ○ テーマに沿って調べる。④⑤⑥ ☆ 問題追究に取り組みやすいように地域の人や農林水産省の職員，栄養士との連携をとっておく。 ☆ 新聞記者と連携をとり，「新聞の書き方講座」を開く。 ☆ 何のために何を調べたいのか困っているグループのために必要に応じて面談を行う。 ○ 整理・分析・まとめる⑦⑧ ☆ 文章構成，図などの効果的な使い方・伝えたいことの明確化など，意識してまとめさせる。 ○ 中間報告会⑨⑩ ☆ 調べたことを生かすために，自分のできることを考えさせる。	(イ) ① (行動観察・ノート) ・ 問題解決に向けた自分なりの調査方法を見付けている。 (ウ) ① (行動観察・ノート) ・ 学習内容に対する自分の課題を見付けている。 (イ) ① (行動観察・ノート) (ア) ① (行動観察) ・ 学習内容に関心をもってしている。 ・ 問題解決に向けた自分なりの調査方法を見付けている。 (ウ) ① (行動観察・ノート) ・ 多様な情報を収集し、整理・分析している。 (ウ) ② (行動観察・ノート) (エ) ② (行動観察・ワークシート) ・ 伝えたいことを相手に分かりやすく表現している。 (エ) ① (発言・行動観察) ・ 自分の成長や友だちのよさに気づき、自分を高めようとしている。 (オ) ① (発言・ワークシート)	国語 話し手の意図をとらえながら聞き，自分の意見と比べるなどして考えをまとめる。 社会 我が国の農業について，調査したり調べたりし，それらは国民の食糧を確保する重要な役割を果たしていることや自然環境と深い関わりをもって営まれていることを考える。 国語 目的や意図に応じ，考えたことなどを文章全体の構成の効果を考えて文章に書く。また，適切に書こうとする態度を身に付ける。 家庭科 ご飯とみそ汁を手順よくおいしく作る。 道徳 自分の役割を自覚し，主体的に責任を果たそうとする心情を育てる。

第三次 (8)	<u>日本の「食」プロジェクトⅡ</u> ～「日本食文化」を受け継ぎ、広めていくために、できることに取り組む～ ○ 夏休みの個人テーマを決めよう ① ☆ 調べたことを生かすために、自分にできることを考えさせる。 ☆ 「ALTの方に、日本食文化のよさを伝える」と相手意識をもたせ、“夏休み日本食新聞”にまとめさせる。 ☆ 料理の先生・栄養士と連携を図り次の2点を行う。 ・ 夏休み前に「食改善講座」を開き、生活の見直しを含めた朝食改善が進められるようにする。 ・ 夏休み中に「親子料理教室」を開き、一汁三菜の献立を学ばせる。保護者の協力を得られるようにする。 ○ 学んだことをまとめよう。②③④⑤⑥⑦⑧ ☆ 国語科との関連を図りながら、的確に言葉や文章で表現させる。 ☆ 夏の実践から学んだこと、感じたことなどを、日本の「食」プロジェクトⅠとつなげて考えをまとめ、目的意識をもって発信できるようにする。	・ 学習内容に対する自分の課題を見付けている。 (イ) ① (行動観察・ノート) ・ 学習したことを生かし、自分ができることに取り組んでいる。 (カ) ① (ワークシート・新聞) ・ 伝えたいことを相手に分かりやすく表現している。 (エ) ① (行動観察・ノート) ・ 伝えたいことを相手に分かりやすく表現している。 (エ) ① (発言・ワークシート) ・ 目的や相手に応じていろいろな方法で表現している。 (エ) ② (行動観察・パンフレット) ・ 自分の成長や友だちのよさに気づき、自分を高めようとしている。 (オ) ① (行動観察・ワークシート)	国語 話題を決めて、収集した知識や情報を関連付け、互いの立場や意図をはっきりさせながら、計画的に話し合う。 道徳 外国の人々や異文化の中に自分と共有される思いがあることに気づき、それを大切にしながら国際親善に努めようとする心情を育てる。 社会 食料輸入の問題について考えるとともに、国内の生産を盛んにするための取組について考える。 道徳 郷土の文化と伝統を大切にし、先人の努力を知り、郷土を愛する心情を育てる。 家庭科 生活に役立つ布製品を製作し、家族と楽しく生活しようとする。 図工 身近にあるものと似たものを材料を活用し、生活や風景の中に溶け込む作品を作る。
第四次 (25)	<u>収穫祭へようこそ！</u> ～地域の方にプロジェクト活動の学びと感謝の気持ちを伝えよう～ ○ 米を収穫する。①②③④⑤ (鳥よけ・稲刈り、乾燥・脱穀・精米) ☆ 体験を通して、米作りの苦労や難しさ、収穫の喜び、感謝の気持ちなどを感じられるようにする。 ☆ 収穫後、収穫新聞を作成する。 ○ 収穫祭の企画を立てる。⑥⑦ ☆ お世話になった人へ、感謝の気持ちを表したり日本の「食」プロジェクトの学びを発表し評価してもらったりする会となるよう、計画を立てさせる。 ○ 収穫祭で配布するパンフレットを作成する。⑧⑨⑩⑪	・ 問題解決に向けた自分なりの調査方法を見付けている。 (ウ) ① (行動観察・カード) ・ 目的や相手に応じて、いろいろな方法で表現している。 (エ) ② (行動観察・カード) ・ 問題解決に向けた自分なりの活動方法を見付けている。 (ウ) ① (行動観察・カード) ・ 多様な情報を収集し、整理・分析している。	家庭科 地域の人たちとの関わりについて見直し、快適に生活するための方法を考える。 音楽 詩と音楽が一体となって生み出される日本の歌曲の美しさを味わう。 国語 目的や意図に応じ、収集した事項を、全体を見通して整理するとともに、引用したり図表やグラフを用いたりするなど、書き方を工夫して、自分の考えが伝わるように書く。

	☆ A L T 向けのパンフレット作りを生かして、よりよいものになるよう支援する。 ○ 収穫祭でふるまう献立を作成する。⑫⑬⑭⑮⑯ 2組 本時(14/25) ☆ チームごとに、これまで学んだ日本食のよさを盛り込んだ日本食献立を作成させる。 ○ 米作り活動を通して学んだこと、考えたことや感謝の思いが伝わる歌を作成する。⑰⑱⑲⑳㉑ 1組 本時(19/25) ☆ 他教科との関連を図り、作詞や作曲を行わせる。 ☆ お互いのよいところや修正するところを出し合いながら作成していくように支援していく。 ○ 収穫祭を開催する。㉒㉓㉔㉕(会食・発表・しめ縄づくり) ☆ 目標に向けて、自分の役割や発表をやり遂げられるように声かけをする。 ☆ アンケートにより感想や評価をいただき、次の活動に生かせるようにする。	(ウ) ② (行動観察・ノート) - 目的や相手に応じて、いろいろな方法で表現している。 (エ) ② (行動観察・ワークシート) - 自分の成長や友だちのよさに気づき、自分を高めようとしている。 (オ) ① (発言・ワークシート) - 伝えたいことを相手に分かりやすく表現している。 (エ) ① (行動観察・発言)	国語 目的や意図に応じ、考えたことなどを文章全体の構成の効果を考えて文章に書く。 道徳 郷土の文化と伝統を大切に、先人の努力を知り、郷土を愛する心情を育てる。
第五次 (10)	<u>日本の「食」プロジェクトⅢ</u> ～学んだことを広めよう～ 「日本食文化の魅力PR」 ○ 発表の企画を立てる。①② ☆ 家族へ、感謝の気持ちや自分たちの「日本の『食』」への思いを伝えさせる。 ☆ “日本食文化の世界遺産化プロジェクト”へ、“日本食文化を受け継ぎ、広めていくため”に活動してきたことや考えたことなどを、分かりやすくまとめ発信させる。 ○ 準備・練習をする。③④⑤⑥⑦⑧⑨⑩ ☆ 発表の相互評価を行い、よりよい発表になるように意欲を高めていく。 ○ 発表会を開催する。⑨⑩ ☆ アンケートにより感想や評価をいただき自分たちの活動を振り返ることができるようにする。	・ 問題解決に向けた自分なりの活動方法を見付けている。 (ウ) ① (行動観察・ワークシート) ・ 多様な情報を収集し、整理・分析している。 (ウ) ② (行動観察・ワークシート) - 目的や相手に応じて、いろいろな方法で表現している。 (エ) ② (行動観察・ワークシート) - 伝えたいことを相手に分かりやすく表現している。 (エ) ① (行動観察・発言)	道徳 日本の伝統や文化に対する理解を深め、日本人としての自覚と誇りをもって国を愛する態度を養う。 社会 我が国の情報産業や情報化した社会の様子について調べ、情報化の進展は国民の生活に影響を及ぼしていることや情報の有効な活用が大切であることを考える。 算数 目的に応じて資料を集めて分類整理し、円グラフや帯グラフを用いて表したり、特徴を調べたりすることができるようにする。 家庭科 栄養素とその働き、食品の栄養的特徴を知り、栄養を考えた食事に関する基礎的・基

			本的な知識及び技能を身に付ける。
第六次 (7)	<u>「学びを振り返ろう」</u> ～日常化への実践力をつけよう。～ ○ 自分の成長を確かめる。①② ☆ 自分の成長に気付き、活動の振り返りができるように、ポートフォリオをまとめさせておく。 ○ お世話になった方々へ礼状を書く。③ ☆ どのような内容や書き方をしたら気持ちが伝わる手紙になるか考えるように声掛けをする。 ○ 最高学年へ向けての自分について考える。④⑤ ☆ 6年生へ向けての具体的なイメージが持てるように声掛けをする。 ○ ○○で祝卒業！バトンタッチの会をする。⑥⑦ ☆ 6年生への御祝いの気持ちを伝え、最高学年としての自覚や意欲が高まる会にしていく。	・ 自分の新たな課題を見出し、自分を高めようとしている。 (オ) ① (発言・ノート) ・ 目的や相手に応じて、いろいろな方法で表現している。 (エ) ② (行動観察・手紙) ・ 自分の成長や友だちのよさに気付き、自分を高めようとしている。 (オ) ① (発言・ノート) ・ 学習したことを生かし、自分ができることに取り組んでいる。 (カ) ① (行動観察・ワークシート)	家庭科 生活とのかかわりから、物や金銭の大切さに気付き、計画的な使い方を考える。 道徳 学校の一員としての自覚をもって、学校をよりよくしようとする心情を育てる。 学活 卒業式の意義を考え、6年生を気持ちよく送るために自分たちのできることを考える。

8 本時の学習 (1組)

(1) 目標と評価

目標	企画書を基に、チームで意見を交流し合い、米作り活動を通して学んだ日本食文化のよさ、考えたことや感謝の思いが伝わる「歌詞」を作成することができる。
評価規準	伝えたいことを相手に分かりやすく表現している。【表現力エ①】

(2) 準備物

企画書・収穫祭新聞・ワークシート・模造紙・付箋・マジック・楽譜（自分たちで作曲したもの）

(3) 学習の展開

学習活動 ○予想される児童の反応	・指導上の留意点 ☆C児への手立て	評価規準 【つきたい力】 (評価方法)
1 前時までの学習について想起する。	・ 活動のゴールを確認する。 「日本食文化の世界無形文化遺産化へ」向けて、日本食文化のよさを受け継ぎ、広めていこう！	
2 本時の学習課題を確認する。	企画書を基に考えを出し合い、日本食文化のよさが伝わる歌詞を作ろう。 ・ みんなで考えた、『歌詞作りの条件』・『歌詞作りの技』を掲示しておく。	
『歌詞作りの条件』 ○チームの主題が、伝わる歌詞にする。 (相手意識・目的意識) (日本食文化のよさ・思い・感謝) ・歌の1番と最後の歌詞、それに合う曲は、みんなで作る。 ・詞もメロディーも4小節単位で構成する。 ・各チーム2番までとする。 (1番2番、続きでも違う内容でもOK) 『歌詞作りの技』 ・起承転結・始め中終わりを考えながら作る。 ・文は短く、大切なポイントを入れる。 ・言葉はシンプルで、心に響くものにする。 ・個の歌詞を生かし組み立てる。(合体・選択) ・曲の山を意識する。 ・メロディーフレーズに対して詞のフレーズを大まかに当てはめる。 ・リズムに合う言葉にする。 (4分音符・2分音符はより細かい音符にしてもよい。) (付点2分や全音符は分割しない方がよい)		
3 本時の活動、ゴールを確認する。 活動Ⅰ 自分の考えを伝える。 ↓ 活動Ⅱ 意見交流して歌詞を作る。 ○ チームの友達を納得させられるように、自信をもって話そう。 ○ みんなで力を合わせて、思いが伝わる歌詞を作りたいな。	・ 本時の学習の流れを確認する。 ・ 相手意識・目的意識を明確にし、一人一人に学習課題に対するめあてを意識させる。 《ゴール》 I 自分の考えを、付箋で示しながら分かりやすく伝えることができる。 Ⅱ① 自分の考えと比べながら聴き、意見を述べることができる。 ② 『歌詞作りの技』を使って歌詞を作ることができる。	
4 チーム内で、発表・意見交流をする。 ○ AさんとBさんのここは、同じ意見だから、1つにまとめよう。	・ 国語の学習を生かして、チームでの話し合いを進めさせる。 ・ 模造紙に、キーワードを書いた付箋紙を貼りながら、自分の思いを伝えさせる。	

○ Cさんの言葉は、思いがグッと心に響くから、ぜひ取り入れたいね。 ○ この表現は、『歌詞作りのワザ』が使えているからいいね。この言葉は、こうするとともに思いが伝わると思う。 ○ この言葉は、曲のフレーズにぴったり合うね。 5 歌詞を発表し、聞き合う。 ○ △チームの歌詞は、～の言葉が引き付けられるね。グッドカードに書いて伝えよう。 6 ゲストティーチャーのアドバイスを聞く。 ○ これまで米作りでずっとお世話になってきた〇〇さんに評価してもらえて、自信がついた。 ○ また、一つ新しいヒントをもらえてこれからの活動の見通しがもてた。 7 本時を振り返り、次時への見通しをもつ。 ○ 似ているものを1つに合わせてよりぴったりくる言葉を作ることができた。 ○ チームで意見を出し合い、みんなの思いが入った歌詞ができた。 ○ ゲストティーチャーのアドバイスを活かして、素敵な歌を完成させたいな。収穫祭で地域の方に聞いてもらうのが楽しみだ。	・ チームの主題がより伝わる歌詞になるように、視点に沿って意見を出し合わせる。 ・ 『歌詞作りのワザ』を使って、歌詞を完成させる。 ☆ 基本的な話型を示すことで、考えを発表しやすくさせる。 ・ 前時までに自分たちで作った曲に合わせて歌い、他チームやゲストティーチャーの方に紹介させる。 ・ 聞き手チームは、発表チームのよさや改善点を付箋に書きながら聞く。(授業後、渡す) ・ 予め見ていただいていた収穫祭新聞の感想やチームの歌についての意見や思いを語っていただく。 ・ メモをしながら聞き、チームの活動に生かしていけるよう声掛けをする。 ・ ゴールが達成できたかどうかを振り返らせる。 ・ 自分の学びをしっかりと確認させ、次の活動への意欲付けをする。 ・ 次時はゲストティーチャーや友達のアドバイスを生かして「歌詞」の見直しをし、完成させていくことを確認する。	伝えたいことを相手に分かりやすく表現している。 【表現力 エ①】 (発言・ワークシート)
--	--	--

8 本時の学習 (2組)

(1) 目標と評価

目標	おもてなし献立を交流することにより、よさを取り入れたり、アドバイスを生かしたりして、収穫祭の“おもてなし和食献立”をよりよいものにしていくことができる。
評価規準	自分や友だちのよさに気づき、自分を高めようとしている。【評価力 オ】

(2) 準備物

チームの発表用掲示物・献立配膳表・ワークシート・付箋・マジック

(3) 学習の展開

学習活動 ○予想される児童の反応	・指導上の留意点 ☆C児への手立て	評価規準 【つきたい力】 (評価方法)
1 前時までの学習について想起する。	・ 活動のゴールを確認する。 「日本食文化の世界無形文化遺産化へ」向けて、日本食文化のよさを受け継ぎ、広めていこう！	
2 本時の学習課題を確認する。	【“おもてなし和食献立”作成】 “おもてなし和食献立”をよりよいものにするために、チームの献立改善ポイントを明らかにしよう。 ・みんなで考えた“おもてなし和食献立”の条件を掲示しておく。 “おもてなし和食献立”の条件 ① 米料理を必ず入れる。(収穫した米を使う) ② みそ汁を必ず入れる。(手作り味噌を使う) ③ 一汁三菜の献立にする。 ④ 調理時間を、2時間以内とする。 ⑤ 日本食文化のよさをアピールできる献立とする。(配膳等も含めて考える)	
3 本時の活動の見通しを確認する。 ゴール① 各チームのおもてなし和食献立を分かりやすく伝えることができる。 ↓ ゴール② よさや改善点をつかみ、献立をレベルアップできる。	・ 本時の課題と学習の流れを確認する。 ・ 相手意識・目的意識を明確にし、一人一人に学習課題に対するめあてを意識させる。	
4 本時でつきたい力を確認する。 ○ 選考会に向けて、張り切って日本食文化のよさをアピールしよう。 ○ おすすめポイントを聞き逃さないようにメモをしながら聞こう。 ○ 他チームの献立のよさを見付け取り入れていきたい。 ○ よりよい献立にして、収穫祭でおもてなしができるよ	・ 発表・意見交流の視点をレベルアップの内容と合わせて提示し、つきたい力を明確にする。 〈発表の視点〉 レベル③ 日本食文化の特徴やよさを取り入れたおすすめポイントを、5個以上アピールすることができる。 レベル② 相手に伝わりやすいように資料を工夫して発表することができる。 レベル① 相手を意識した話し方で発表ができる。 〈聞く時の視点〉 レベル③ 自分のチームに生かせることを見付けることができる。 レベル② 献立の改善点を見付け、伝えることができる。 レベル① 献立のよさ見付け、伝えることができる。	

うに、積極的に感想を伝え合っていこう。 5 チームごとに発表し、意見交流をする。 発表①②③④ → 意見交流 ○ みそ汁の具は、旬の野菜をたっぷり入れたよ。出汁は瀬戸内の煮干しを使ったよ。 ○ 収穫した米で、おにぎりを作ろう。おにぎりは食べやすいおいしく食べてもらえそうだね。 ○ 主菜は、短時間で大量にできる煮物にしているところがいい考えた。 ○ 配膳表にある葉の箸置きや、一輪の花を添える和のおもてなしを取り入れたいな。 6 ゲストティーチャーのアドバイスを聞く。 ○ 評価してもらえて、自信がついた。 7 レベルアップ会議を開く。 ○ 友達やゲストティーチャーの方からのアドバイスを基に、地域のお年寄りにもっと喜んでいただける“おもてなし和食献立”にしていきたい。 8 本時を振り返り、次時への見通しをもつ。	- これまでの学びを生かして、“おもてなし和食献立”の条件に合った献立を作成し、収穫祭で和のおもてなしをするというプロジェクトの目的を意識して取り組めるようにしておく。 - 食材の選択、彩り、配ぜんの工夫、栄養バランスなどいろいろな面から良い点や改善点を見付けさせる。 - 聞き手チームは、レベルアップの観点に沿って、献立のよさ・改善点を付箋に書き、全体に出させるようにする。 - 発表チームもレベルの観点に沿って自己評価をさせる。 ☆ 観点を基に、発表に対する思いや取り入れたいことを整理していけるように声かけをする。 - チームや全体へ、“おもてなし和食献立”についての感想や意見を話していただく。 - 友達やゲストティーチャーのアドバイスを生かして、チームの改善ポイントを明らかにし、今後の活動を具体的に考えさせる。 - 各チームがレベルアップ会議で考えた改善点を全体に発表する。 - めあてに対して振り返り、自分の学びをしっかり確認させ、次の活動への意欲付けをする。	自分や友だちのよさに気付き、自分を高めようとしている。 【評価力 オ】 (発言・ワークシート)
--	--	--

受け継ごう！広めよう！日本の食 ～米作りを通して～

11月 22日(木) 名前[]

収穫祭へようこそ

学習課題

- ・企画書をもとに考えを出し合い、日本食文化のよさが伝わる歌詞を作ろう。

	チーム 【発表する時・意見交流をする時】	〇〇△
ゴールⅠ	自分の考えを、付箋で示しながら分かりやすく伝えることができた。	
ゴールⅡ①	自分の考えと比べながら聞き、意見を述べることができた。 (回)	
ゴールⅡ②	『歌詞作りの技』を使って歌詞を作ることができた。	

☆これで決定！！ ☆☆ チームの歌詞！ ☆

【振り返り】

☆頑張ったこと ☆ついた力

☆ゲストティーチャーのアドバイスから次に生かしていきたいこと

受け継ごう！広めよう！日本の食 ～米作りを通して～

11月22日（木） 名前（ ）

学習課題

学習課題

“おもてなし和食献立”をよりよいものにするために、チームの献立改善ポイントを明らかにしよう。

☆自分はどのレベルまで達成できたか評価しよう！

	発表するとき	聞くとき
レベル③	日本食文化の特徴やよさを取り入れたおすすめポイントを、5個以上アピールすることができた。	自分のチームに生かせることを見付けることができた。
レベル②	相手に伝わりやすいように資料を工夫して発表することができた。	献立の改善点を見付け、伝えることができた。
レベル①	相手を意識した話し方で発表ができた。	献立のよさ見付け、伝えることができた。

【他のチームの発表を聞いて、自分のチームに生かしたいと思ったこと】

【チームの献立改善ポイント】（他チーム・ゲストティーチャーからのアドバイスを参考に）

振り返り（この1時間でついた力・これからしていきたいこと）

.....

.....

.....

.....

単元構想図

第5学年〈主な学習活動〉

「食」の中心、米づくり体験をしよう

オリエンテーションをし、活動を見通そう(課題設定)

・米についての知識を広げよう(個人学習)

米づくりの実際を学ぼう

〔田んぼ・バケツ稲〕

- ・活動計画
- ・聞き取り・インタビュー

土づくり
芽出し
種まき
苗を育てる
代かき
田植え・水の管理
稲の生長を管理
・生長の様子を調べる
・草取り・肥料
・病気や害虫から稲を守る
稲刈り・脱穀
もみすり・精米

日本の「食」プロジェクトⅠ

☆日本の「食」「米」を探究しよう

「日本食文化の世界無形文化遺産化へ」向けて活動、発信するという目的を明らかにする。

- ・課題設定 活動計画
- ・情報収集 (個人学習→グループ学習)
(全体学習・専門家、地域の方の話)
- ・まとめる
- ・中間報告会(意見交流・計画の見直し)

日本の「食」プロジェクトⅡ

☆日本の食文化を守るためにできることを考えよう

- ・「食」改善講座(全体学習・栄養士、大学講師)
- ☆「食」を見つめ直し、自分にできることをやってみよう(夏休みを含む)
- ・親子料理教室・朝食づくり・コンテスト参加等
- ☆学びをまとめよう
- ・一人一テーマ新聞づくり(個人学習)→パンフレット作成(グループ学習)

収穫祭へようこそ！

☆地域の方にプロジェクト活動の学びと感謝の気持ちを伝えよう

○収穫祭の企画

- ・発表に向けて →準備・練習・調理

○収穫祭の開催【発表・和のおもてなし・しめ縄づくり】

〔招待者の感想を聞き自分の考えを練り上げる〕

日本の「食」プロジェクトⅢ

☆学んだことを広めよう【日本食文化の魅力PR】

○企画・整理分析・まとめる→準備・練習→発信

他学年へ向けて発表

お家の人へ向けて発表

無形文化遺産化へ・発信

学びを振り返ろう

- 学びを振り返り、自分の成長を確かめよう
- ・お世話になった方々へ礼状を書こう
- 最高学年へ向けての自分について考えよう
- “〇〇で祝卒業！”バトンタッチの会を開こう！
- 日常化への実践力をつけよう

〈他教科等とのつながり〉

季節の言葉 (年間)

(国語)

新聞を読もう

(国語)

植物の発芽と成長

(理科)

「百シャアのふたごしまい」 きん

さん・ぎんさん

(道徳)

おいしいね毎日の食事

(家庭)

給食について

(学級活動)

お父さんのおべんとう

(道徳)

きいて、きいて、きいてみよう

(国語)

米づくりのさかんな地域

(社会)

次への一步—活動報告書

(国語)

ご飯とみそ汁を作ろう

(家庭科)

かれてしまったヒマワリ

(道徳)

おいしいご飯

(学校行事)

豊かな言葉の使い手になるためには

(国語)

同じ空の下で

(道徳)

これからの食料生産

(社会)

ぬって作ろう楽しい生活

(家庭)

あれ？これ？なに？

(図画工作)

地域の人とのかかわりを考えよう

(家庭)

詩と音楽を味わおう

(音楽)

グラフや表を引用してかこう

(国語)

わたしの「図書館改造」提案

(国語)

親から子へ、そして孫へと

(道徳)

正月料理

(道徳)

情報を伝える

(社会)

割合とグラフ

(算数)

食べることの大切さを考えよう

(家庭)

考えよう買い物と暮らし

(家庭)

バトンをつなげ

(道徳)

6年生を送るために

(学級活動)

受け継ごう！広めよう！日本の食

米づくりを通して

第5学年 各教科・領域等を関連付けた年間学習計画

月	総合的な学習の時間	つきたい力					道徳	教科・領域等	
		学習への意欲	学ぶ力						生活活用力
			課題発見力	課題追究力	表現力	評価力			
	単元名 受け継ごう！広めよう！日本の食 ～米づくりを通して～								
4	学習計画を立てよう ・オリエンテーションをし、活動を見通す。 (課題設定)	●	●				主題「節度ある生活態度」1－1 資料名「百シヤアのふたごしまいきんさん・ぎんさん」	国語 「季節の言葉」 国語 「新聞を読もう」 理科 「植物の発芽と成長」	
5	・米についての知識を広げる。 「食」の中心、米づくり体験をしよう			●			主題「家族愛」4－5 資料名「お父さんのおべんとう」	家庭 「おいしいね毎日の食事」 学級活動 「給食について」	
6	日本の「食」プロジェクトⅠ ☆ 日本の主食「米」を探究しよう ・課題設定・活動計画 ・情報収集 (個人学習→グループ学習) (全体学習・専門家、地域の方の話) ・まとめる ・中間報告会 《意見交換・計画の見直し》	●	●	●			主題「社会的役割の自覚と責任」4－3 資料名「かれてしまったヒマワリ」	国語 「きて、きて、きてみよう」 社会 「米づくりのさかんな地域」 家庭 「できることから始めよう」 国語 「次への一歩―活動報告書」	
7	日本の「食」プロジェクトⅡ ☆ 日本の食文化を守るためにできることを考えよう。 ☆ 「食」を見つめ直し、自分にできることをやってみよう。 ☆ 学びをまとめよう。					●		家庭 「ごはんのみそ汁を作ろう」 学校行事 「おいしいご飯」 国語 「豊かな言葉の使い手になるためには」	
8		●					主題「国際理解と親善」4－8 資料名「同じ空の下で」	社会 「これからの食料生産」	
9			●					学行（社会見学） 「情報を伝える」	
10	収穫祭へようこそ！ ☆ 地域の方にプロジェクト活動の学びと感謝の気持ちを伝えよう ○収穫祭の企画 ・発表に向けて―準備・練習・調理 ○収穫祭の開催 【発表・おもてなし・しめ縄づくり】 《招待者の感想を聞き、自分の考えを練り上げる》	●	●	●			主題「郷土愛、愛国心」4－7 資料名「親から子へ、そして孫へと」	家庭 「ぬって作ろう楽しい生活」 図画工作 「あれ？これ？なに？」 家庭 「地域の人とのかかわりを考えよう」	
11			●		●			音楽 「詩と音楽を味わおう」 国語 「グラフや表を引用してかこう」	
12	日本の「食」プロジェクトⅢ ☆ 学んだことを広めよう！（日本食文化の魅力PR） 【他学年へ】【おうちの人へ】 【ユネスコ無形文化遺産化へ・発信】 ・企画 整理分析・まとめる。 ・準備・練習する。 ・発信する。	●		●			主題「郷土愛、愛国心」4－7 資料名「正月料理」	国語 「わたしの「図書館改造」提案」 社会 「情報を伝える」	
1		●		●				算数 「割合とグラフ」	
2	学びを振り返ろう ○自分の成長を確かめよう。 ・お世話になった方々へ礼状を書く。 ○最前学年へ向けての自分について考える。 “〇〇で卒業！”パトンタッチの会 ○日常化への実践力をつけよう。					●	主題「愛校心」4－6 資料名「バトンをつなげ」	家庭 「食べることの大切さを考えよう」 家庭 「考えよう買い物と暮らし」	
3		●			●			学級活動 「6年生を送るために」	

受け継ごう！広めよう！日本の食 ～米作りを通して～

11月 22日(木) 名前[]

収穫祭へようこそ

学習課題

- ・企画書をもとに考えを出し合い、日本食文化のよさが伝わる歌詞を作ろう。

	チーム 【発表する時・意見交流をする時】	〇〇△
ゴールⅠ	自分の考えを、付箋で示しながら分かりやすく伝えることができた。	
ゴールⅡ①	自分の考えと比べながら聞き、意見を述べることができた。 (回)	
ゴールⅡ②	『歌詞作りの技』を使って歌詞を作ることができた。	

☆これで決定！！ ☆☆ チームの歌詞！ ☆

【振り返り】

☆頑張ったこと ☆ついた力

☆ゲストティーチャーのアドバイスから次に生かしていきたいこと

受け継ごう！広めよう！日本の食 ～米作りを通して～

11月22日（木） 名前（ ）

学習課題

学習課題

“おもてなし和食献立”をよりよいものにするために、チームの献立改善ポイントを明らかにしよう。

☆自分はどのレベルまで達成できたか評価しよう！

	発表するとき	聞くとき
レベル③	日本食文化の特徴やよさを取り入れたおすすめポイントを、5個以上アピールすることができた。	自分のチームに生かせることを見つけることができた。
レベル②	相手に伝わりやすいように資料を工夫して発表することができた。	献立の改善点を見つけ、伝えることができた。
レベル①	相手を意識した話し方で発表ができた。	献立のよさを見つけ、伝えることができた。

【他のチームの発表を聞いて、自分のチームに生かしたいと思ったこと】

【チームの献立改善ポイント】（他チーム・ゲストティーチャーからのアドバイスを参考に）

振り返り（この1時間でついた力・これからしていきたいこと）

.....

.....

.....

.....